

中年独身者の老後生活設計： 特集にあたって

高山 憲之

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構 研究主幹 一橋大学名誉教授

【 記 事 情 報 】

掲載誌：年金研究 No.3 p.41 ISSN 2189-969X

オンライン掲載日：2016年6月28日

掲載ホームページ：<http://www.nensoken.or.jp/nenkinkenkyu/>

日本では1990年以降、男女ともに生涯未婚率が一貫して上昇しており、その割合は2035年には男性が29%、女性が19%になるとそれぞれ推計されている。最近では親と同居する中年未婚者も多い。

現在における中年未婚者の生活実態や意識、老後の生活設計などは、いったいどうなっているのだろうか。この点に関する調査や研究は、これまでほとんど行われてこなかった。関連データはあまり蓄積されておらず、既存の調査研究も決定的に不足している。

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構では、その前身の1つである財団法人シニアプラン開発機構の時代から、中年の未婚女性に注目し、その老後設計等について2000年度から5年おきにアンケート調査を実施してきた。そして、その延長上で2015年度には第4回目の調査をインターネット調査として実施した。第4回調査では中年の未婚男性も新たに調査対象に含めた。有効回答数は男女合計で2275サンプル、回収率は64.9%であった。

本誌第3号は上記の第4回「独身者（40～50代）の老後生活設計ニーズに関する調査」に関する特集号である。分析論文は丸山桂氏、および藤森克彦氏の2人が執筆している。また、第4回調査の調査目的と方法、調査結果の概要、過去調査との比較については、いずれも長野誠治氏が解説している。

なお、世代間問題研究プロジェクトは2011年に30～60歳層を対象にした「くらしと仕事に関するインターネット調査」を実施している。その調査対象者には433サンプルの中年（40～60歳）の未婚男性が含まれていた。当該調査は中年の未婚者を念頭に置いて調査したものではない。ただし、サンプル数が少ないとはいえ、これまで実態が不明であった中年未婚男性に関する貴重な情報がその調査結果には含まれている。そこで、当該調査から中年未婚男性のみを抽出して取りまとめた調査結果の概要も、本誌第3号で解説することにした。